

ここでの「英作文」とは、与えられた和文を英訳する問題（和文英訳）や、あるテーマについて自分の意見を英語で述べる問題（自由英作文）のことを指します。近年、英作文を出題する大学は増えており、万全な英作文対策をすることは、特に難関大学に現役合格するにあたって必要不可欠であると言っても過言ではありません。

英作文の対策として重要なのは、“DOs&DON'Ts”、つまり「してよいこと」と「してはならないこと」の両方を知ることです。その知識を蓄積していくために、基本例文を暗記し添削によるフィードバックを繰り返し受けていくことが王道なのですが、この“DOs&DON'Ts”の知識を高いレベルで習得するにはかなりの時間を要します。そこで**本講座は、そもそも英作文の問題を解くにあたっての正しい「動機」を把握してもらい、その動機ごとに正しい「頭の動かし方」を習得してもらい、必要最低限の“DOs&DON'Ts”の知識で良質な英文が書けるようにすることを目的とし、講義と添削指導（※1）を行います。**本講座の内容を習得することで、英作文の対策にかける時間を一気に削減し、効率的な学習を実現してもらおうというのが大きな狙いです。

本講座では、和文英訳型と自由英作文型の両方の形式を扱いますが、**比重としては和文英訳型にやや重きが置かれた講座内容**になっています。皆さんの中には、自分の志望校で直接出題される自由英作文の対策をより多くしたいと思う人が多いかもしれません。確かに、今では英作文を課す大学の中で自由英作文が出題されない大学の方が珍しいほど、自由英作文が主流となっています。しかし、**日本人である私たちの思考を表現する力を養うには、和文英訳型の問題演習が極めて重要**です。これを十分に行って初めて、自由英作文で自分の意見を真の意味で自由に述べることができるようになります。無闇に自由英作文の問題演習を重ねても、First, ... や Second,...などの接続語を使って表層を綺麗にすることが上手くなる一方で、中身のない英文ばかりが並ぶ答案から脱却できないケースは往々にしてあります。本講座はそういったことがないように、和文英訳型に比較的重きを置いたカリキュラムが組まれています。ただし、**自由英作文の対策についても十分に行うので心配は不要**です。

【受講条件】

- ① 志望校の入試において本格的な英作文が出題される（※2）こと
- ② 復習試験で**最低 120 点は得点している**（※3）こと

【注意】

※1：本講座では毎授業で前回の授業で扱った英文の暗記チェックテストを行います。このテストで十分な点数に達しなかった場合は添削対象外となる場合があります。

※2：具体的には以下の志望校および目標の人となります。

- ・東大、京大、一橋大、東京外大、東北大、お茶の水女子大などの国公立大学全般（※ただ

し、千葉大と東工大を除く)

- ・早稲田大（法・政経・国際教養）、慶應大（経済・医・看護医療）、順天堂大（医）など
- ・上智大や立教大に必要な英検や TEAP などの 4 技能試験で CEFR B2 レベル(英検準 1 級相当)程度を取ること

例えば早稲田大の文学部・文化構想学部や慶應大の文学部などでも英作文は出題されますが、本講座はオーバーワークになるため、対象外です。また、東工大にも英作文が出題されますが、この大学の志望者は一般的に理系科目に多くの時間を割くべきである為、理系科目に不安がある人はそちらを優先することを推奨します。上記の大学以外の志望者で受講するかどうか判断に迷う場合は、必ずレギュラーの講師に相談してください。

※3：この点数は必要最低限の点数です。これを下回る場合は確実に消化不良を起こし、却って非効率な学習となるため、受講するべきではありません。なお、レギュラーで英語を受講していない人は対象外となります。